

共通取組 重点取組	平成25年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	・児童主体の「わかる授業」の実現のために、重点研究の充実に努める。外部講師を招き、一人一回授業提案を行い、指導方法の工夫改善を図る。	・重点研究では、課題解決にじっくり取り組み、共に高め合う子どもを育てるための研究を進めた。自分から進んで調べたり考えたりする力、自分の考えと友達の考えを交流して高め合う力、調べたことを活用する力を育てる取り組みを行っていききたい。	A B C D
2 豊かな 心	・全学級の道徳の授業を家庭・地域に公開する。(年1回以上) ・なかよし学年の活動(異学年交流)を計画的に実施する。	・全学級の道徳を授業参観で公開した。 ・なかよし学年の活動では、児童中心の活動や相手の立場に立った行動が多く見られ、異学年の交流が深まり、有意義だった。	A B C D
3 健やかな 体	・かもっ子体力向上プログラムを推進し、継続的に運動を続ける。(かもっ子体操、長縄)	・全校で体力アップ週間の長縄や持久走に取り組んだが、継続的な運動には至っていない。通年で根をおろすような取り組み方を工夫していききたい。	A B C D
4 地域連携	・地域行事に協力し、児童への参加を促す。 ・学習環境整備やクラブ等の協力者として、学校支援ボランティアを積極的に導入する。 ・学校HPを充実させる。	・地域行事への参加体制はよかった。 ・ボランティアの方々から充実した活動をしていただいた。子どもたちがボランティアの方々の取り組みを知り、感謝の気持ちをもてるようにしたい。 ・学校HPは、学校の様々な活動を紹介し、充実していた。	A B C D
5 児童生徒 指導	・あいさつ運動の取り組みを行う。 ・児童支援専任を中心とし、保護者や関係機関と連携を取りながら児童の支援・指導に当たる。	・あいさつ運動は、全体的な広がりには至っていない。あいさつ運動以外の場面であいさつを増やすような具体的な取り組みの検討が必要である。 ・児童支援専任を中心とした指導体制が充実していた。かもっこルームも円滑に機能していた。	A B C D
6 特別支援 教育	・インクルーシブな教育システムを構築するために、研修会や教職員間の情報共有の場を設ける。	・毎月の職員会議や児童支援委員会での研修、日頃の情報交換などで、情報共有の場が多くとれていた。	A B C D
7 人材育成 組織運営	・学年やブロックでチームとして対応し、児童一人ひとりを複数の目で見て育てる体制をつくる。 ・メンターチームを活性化させ、授業実践や実技研修等の活動を実施する。	・学年やブロックで相談しながら、配慮を要する子へ支援や学級運営・授業方法等の検討を行い、チームで指導支援にあたることができた。 ・メンターチームは、指導案検討や授業実践を積極的に行った。授業力向上に向けて、基礎的な指導方法を情報提供し、人材育成に努めたい。	A B C D

共通取組 重点取組	平成26年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	・「わかる」「できる」楽しさや喜びを味わわせる授業の実現のために、学年研や重点研の充実に努め、指導方法の工夫改善を図る。		A B C D
2 豊かな 心	・全学級の道徳の授業を家庭・地域に公開する。(年1回以上) ・なかよし学年の活動(異学年交流)を計画的に実施する。		A B C D
3 健やかな 体	・かもっ子体力向上プログラムを推進し、継続的に運動を続ける。 ・教職員の体育実技研修を行い、子どもたちの体力向上のための指導法や適切な手立てを学ぶ。		A B C D
4 地域連携	・地域行事に協力し、児童への参加を促す。 ・学習環境整備やクラブ等の協力者として、学校支援ボランティアを積極的に導入する。 ・学校HPを充実させる。		A B C D
5 児童生徒 指導	・基本的な生活習慣を身に付けるために、毎月の生活目標について各学級で話し合い、振り返りも行う。また、懇談会などの機会を通して、保護者とも連携する。		A B C D
6 特別支援 教育	・インクルーシブな教育システムを構築するために、研修会や教職員間の情報共有の場を設ける。		A B C D
7 人材育成 組織運営	・学年やブロックでチームとして対応し、児童一人ひとりを複数の目で見て育てる体制をつくる。 ・指導力向上のために、メンターチームを活性化させ、授業実践や実技研修等の活動を実施する。		A B C D

共通取組 重点取組	平成27年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力			A B C D
2 豊かな 心			A B C D
3 健やかな 体			A B C D
4			A B C D
			A B C D
			A B C D
			A B C D
			A B C D
			A B C D
人材育成 組織運営			A B C D

小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	・全学級の道徳の授業公開は、保護者の理解を深めることにもつながり、よいと思う。また、小中連携の取り組みの一つに道徳部会を設け、「豊かな心」に対する取り組みが充実している。 ・様々な地域行事に対する教職員の参加体制は、伝統的に続く学校と地域の絆の深さを感じる。 ・あいさつの取り組みは、学校・保護者・地域で連携するとよい。
学校関係者 評価結果	・学校と地域との連携がよい。学校だよりやHPでも、子どもたちのいきいきとした姿が伝わってくる。 ・あいさつに関しては、義務ではなく自然な形で広がっていくとよい。当たり前のことが当たり前でできるような子どもたちを育ててほしい。 ・日頃の会話の中でベテランから若手に伝えたり、地域行事等で教職員以外のいろいろな人たちと交流したりすることで、人としての幅を広げ、人材育成につなげてほしい。
評価結果に 対する 学校の見解	・次年度は創立140周年でもあるので、より一層地域との連携を図っていききたい。また、授業参観、懇談会等の機会を通して、保護者とも連携しながら、当たり前のことが当たり前でできる子どもを育てていきたい。 ・体力向上については、小中ブロック内で同じ傾向が見られるので、運動量を増やし、けがを減らすことをめざして、具体的な取り組みを検討していききたい。

小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	
学校関係者 評価結果	
評価結果に 対する 学校の見解	

小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	
学校関係者 評価結果	
評価結果に 対する 学校の見解	

学校経営 中期目標 達成状況	・学校教育目標の実現をめざして、計画した取り組みを着実に推進することができた。特に今年度から始めたなかよし学年活動では、育てたい子ども像に近づくことができた。次年度もより充実した取り組みを行っていききたい。また、児童支援体制が整い、円滑に機能した。次年度は更に予防的な支援も充実させ、どの子も自信をもって学習や生活ができるような教育システムの構築をめざしたい。 ・課題解決に向けて粘り強く取り組む子の育成、コミュニケーションの充実、健やかな体づくりに関しては、成果を上げるための取り組みの検討が必要である。
----------------------	--

学校経営 中期目標 達成状況	
----------------------	--

学校経営 中期目標 達成状況	
----------------------	--